



何歳までなら完璧なバイリンガルになれる？

Why Kids Learn Languages More Easily Than You Do

歳をとればとるほど、第二外国語の勉強は厄介になるものだ。最近発表された調査で、ネイティブと同じレベルの外国語を習得できる限界年齢がわかった。その答えは、ズバリ「10歳」だ。

専門誌“Cognition”でこの調査は発表された。10歳を超えてから語学を開始すると、完璧なバイリンガルになれる可能性は極めて0%に近づく。10歳を境に語学の能力が落ちるからではない。心理学を専門とする調査の共同著者ジョシュア・ハーツホーン准教授によると、「単純に残り時間が少なくなるからです。実際の能力が落ち始めるのは17～18歳の頃から」だという。

大人より子どもの方が語学の習得に向いている理由はいくつもある。子どもの脳の方が柔軟であり、新しい情報に対して適応する能力に優れている。「習得するということは、つまり脳が変化することです」とハーツホーンは説明する。「子どもの脳は、変化についてはより熟練しているのです」。

子どもは、時に狂ったように、新しいことに嬉々として取り組む傾向もある。母国語でさえ、まだ完

璧でないことが、第二外国語習得には有利に働いている。大人は母国語の常識にとらわれてしまうが、子どもは白紙の状態外国語に挑めることが大きい。

今回の調査は、インターネットのクイズ形式で実施された。英語の文法問題に答えてもらい、回答者の母国語・方言・国籍を当てるといったものだ。最後に回答者に本当の母国語を教えてもらい、統計データの正確性を高めた。このクイズは話題を呼び、67万人ものデータが集まった。結果として世界中の英語スピーカーの膨大なデータベースが完成したのだ。

このデータベースは、大人にとっても参考になる事実を明らかにした。大人が語学学習する場合は、クラス形式で習うよりも、没頭して勉強する方が効率は良い。そして習得したい言葉が話されている場所に行くことが、最も手っ取り早い。

それが無理な人は、集中できる環境を自分で作り出せばいい。あなたが住んでいる場所で、ネイティブ・スピーカーを見つければいいのだ。真剣に学べば、完璧ではなくても、かなりのレベルには上達するはずだ。